

精霊たちの棲む大地

番外編

ヒマラヤから来た精霊



lyric by aono
photo by hiros



私をここへ連れてこられてから

どのくらいの時が経っただろう

青いヒマラヤの空の下

優しい精霊の加護のもと

冷たい空気を胸いっぱい吸い込んで

暖かい光を全身で浴びた

あの故郷が懐かしい



山の向こうのそのまた向こうから

ヒマラヤの風の匂いが漂ってくる

もしかして あれはヒマラヤの精霊が

風に乗っているのかしら

私たちのところへ来るために

風を急がせているのかしら



「私の愛しい青い芥子たちよ

お前達が 元気にしているかと気にかけていた」

「私たちは元気です

でも 時々ヒマラヤを思い胸が苦しくなるのです」

「私の愛しい青い芥子たちよ

ここがお前達の生きる土地

この地に馴染み この地を愛し

子孫をここで増やして欲しい」



私たちは全員で 首をゆっくり縦に振り

精霊の言葉に頷いた

「私たちも この緑の大地が大好きです

でもヒマラヤの あの青い空が懐かしい

あなたの運んでくれる 風の匂いがなつかしい

もしも叶うことならば どうか時々お姿を私たちの前に現して

故郷の香りを届けてください」

ヒマラヤから来た精霊は 私たちをその懐に抱いて囁いた



「私はいつでもお前達のため

愛しい青い芥子のため 風に乗って飛んでくる

もしも悲しいことがあったなら もしも辛いことがあったなら

私の元に届くように 風に思いを託しなさい」

私たちは安堵して

精霊を見上げ誓いの言葉を口にした

「これからは この大地に根をおろし

子孫を増やしてまいります」

それを聞いた精霊は

風に乗ると 優しく微笑み去っていった

-end-